

1 ■ 3 ナンパされたモニカに嫉妬する旦那様と、甘やかしデロデロセックス

2
3 男A「うひょー！奇跡の美女発見！」

4
5 下品な視線でモニカを見つめながら

6
7 男B「マジやばくね？超絶美人じゃん！」

8
9 モニカの前に回り込み

10
11 モニカ「（小声）チッ。虫けらが2匹……」

12
13 完全に無視して通り過ぎようとする

14
15 男A「あ、待ってくださいよ！」

16
17 モニカの前に立ちはだかり

18
19 男A「俺、モデル事務所で働いてて。是非うちのモデルになってくれませんか？」

20
21 男B「俺も同じ事務所！実は今度グラビアの撮影があつてさ、それに出てくんないか
22 な？」

23 下品な視線でモニカの体を見ながら

24
25 男B「お姉さんさあ。スタイル良すぎだから、絶対売れますって！」

26
27 モニカ

28 「へえ、モデルですか？ふふ、でもあなたたち、

29 せいぜい、量販店のチラシモデルといったところじゃないんですか？

30 教養のなさが顔に現れていますよ？」

31 男B「ははっ。きつつう！ そんな意地悪言わないでよ」

32
33 しつこく近づき

34
35 男A「俺ら、結構稼いでるんすよー！ 六本木のクラブでVIPな席も用意できるくら
36 い余裕くらいにね！」

37
38 モニカ、愉しむように

39
40 モニカ「まあ、VIP、ですか？」

41
42 モニカ、冷笑を浮かべ

43
44 モニカ「凄いですね。でも私にとってそれは……。そうですね。」

45 言うなれば、下水道のような場所でしょうか。なんの興味もそそられません」

46
47 男B「へえ〜？ お姉さん、そんないいところのお嬢様なの？」

48
49 下品な笑みを浮かべ、男がモニカの顎に触る。

50
51 男B「だったらさ、俺たちがお嬢様が絶対に知らない世界に連れて行って、
52 可愛がってあげようか？」

53 モニカ「ふふ。私を可愛がる？」

54
55 完全な軽蔑の眼差しで

56
57 モニカ「虫けらに愛でられるくらいなら、それこそ下水道で眠る方がマシです」

58
59 男A「はは。そんなこと言わないでさ」

60
61

モニカの体を舐めるような視線で

男A「もっと楽しもうよ。俺たちとなら刺激的な夜を過ごせるからさ」

モニカ、艶やかに微笑みながら

モニカ「まあ……。刺激的な夜、ですか。実に甘美な響きですが、

やはり残念ながらあなたたちでは、まったくそそられませんね」

男B「へえ？　もしかして恋人か旦那さんいる？　でも、こんなチャンスもつたいない
っつー！」

さらに近づき

男B「だって、平凡なサラリーマンの旦那さんより、俺らと一緒にの方が絶対良いからさ！」

モニカが凍てつくような笑みを浮かべ

モニカ「ふっ……。ふふ。よもや私の旦那様をその穢れた口で語るとはな。

旦那様の足元にも及ばない虫けら風情が、

この世で最も愛おしいあの方を、貴様ら如きが評価できてると思ってるのか？」

男B「へえ？　そっちが素？　良いじゃん。これは時間かけて仲良くなるしかねえな。
お姉さん、ラインとかやってるよね？　俺らといればすぐ言ってることが分かるから
やー」

しつこくモニカの前に回り込む

モニカ「はあ……。訂正する。貴様らに教養なんてものは、そもそも存在してなかった。
社会性が欠如しているゴミクズでしかなかったわけだ」

93 男A「あはは！クールビューティー！ 最高っすね！」
94

95 男Aがスマホを取り出しながら
96

97 男A「でも大丈夫大丈夫！ モデルやってることも、楽しめるってことも嘘じゃないっ
98 すよ！ 俺、その界限じゃ有名なんで！ インスタフォロワー3万人いて、今度テレビ
99 にも出るんすから！ 仕事バンバン来ますよ！」
100

101 モニカが眉をひそめ、嫌悪感満載で
102

103 モニカ「3万……？ はっ（※冷笑）。
104

105 そんな数字になんの意味がある。私の旦那様の靴底に付いた埃ほどの価値もないぞ」
106

107 男B「いやいや、今どき自分のことを旦那様なんて呼ばせてるの、本当にお堅いやつか、
108 バカしかいねえでしょ！ そんな堅い感じの人より、俺みたいなイケてるやつの方がぜ
109 っってえ良いって！」
110

111 モニカ、静かにキレる。
112

112 モニカ「黙れ、このクズが。この世の嫌悪するすべてのものを煮詰めて抽出したような
113 汚物が、私の旦那様を語るな。」
114

114 これ以上、この世で最も愛しいあの方を貶めようものなら、ただでは済むと思うなよ」
115 男B「ははっ！ おこだけどやっぱ可愛いじゃん！ えっ、旦那様どんな人なわけ？」
116

117 モニカ、急に誇らしげな表情になって甘い声を発する。
118

119 モニカ「だ、旦那様は……そうだな。私の旦那様は、優しくて、知的で、
120

120 私のことを誰よりも大切にしてくれる素晴らしい方だよ。
121

121 毎日一緒にいるだけで幸せに満ち溢れるんだ。自分を一般人以下だと卑下するところが
122

122 また可愛くて仕方ない。私にはすべてが極上だというのに」
123

124 男B「へえ〜？ でも見た目的には普通の人なんでしょ？
125 そんな地味な旦那よりさ、俺みたいなイケメンの方が映えるっすよ！
126 お姉さん、その素材活かさなきゃもったいないって！」
127

128 モニカ、哀れみ。
129

130 モニカ「ふん。確かに私の旦那様は、貴様らのような派手な見た目はしていない。
131 でも、それこそが素晴らしいんだ。あの素朴な感じは守ってあげたくなくて仕方ない」
132

133 男「え〜？ 普通の人じゃ勿体くない？ それに妻に守られる旦那って……笑」
134

135 モニカのスマホが鳴る。一瞬で表情が華やかに。
136

137 モニカ「おや♡ 噂をすればその旦那様だ。……もしもし？」
138

139 声が意気揚々になる
140

141 モニカ「旦那様、準備は終わったのか？ ……ああ、なに気にすることはないよ。
142 ただじっと旦那様を待つというのも実にオツなものでね。時間が経てば経つほど、
143 ワクワクが溢れてくる。ふふ、だから急がなくて良いからゆっくりおいで、旦那様」
144 電話を切った後、モニカが2人に向かって優雅に微笑む。
145

146 モニカ「というわけで、さようならだ。虫けらさんたち」
147

148 ナンパ男A「い、今の旦那さん？ いや、待ってくださいよ！ まだ話は……！」
149

150 モニカ「来世は虫じゃなく、人間に生まれ変われることを祈ってるよ」
151

152 モニカ高慢に歩き去りながら呟く。
153

154

155 モニカ「ああ、旦那様、あんな下等生物達に、あなたの悪口を言わせてしまった。
156 どうやって償うべきか……。ああ♡ それを考えるとゾクゾクして仕方ない。
157 早くそのお顔を見せて欲しい、旦那様♡」

158
159 **その後、待ち合わせ場所で**
160

161 モニカ「旦那様、待ってたぞ♡ いや、待ちわびたと言うべきかな。
162 ……うん？ どうした、そんな不安そうな顔をして」
163

164 旦那「(不安そうに) さっき、誰かに絡まれてたの？」
165

166 モニカ **(優雅に微笑みながら)**

167 「ああ。さっきのか？ ふふ、旦那様。私のことを案じてくれるんだな。
168

169 これほどの幸せを与えてくださるのに、私が他の男になど見向きするはずないだろう？」
170

171 旦那「(俯きながら) でもやっぱり僕なんかより、もっと相応しい人が……」
172

173 モニカ **(凛とした態度で)**

174 「旦那様。あなたは一国の王女たるこのモニカが選んだ御方。それ以上の価値など、私
175 の国には存在しない。つまり、私の愛する旦那様をそのように貶めることは、
176 祖国への宣戦布告と同じことだ」

177 旦那「(驚いて) そ、そこまで!？」
178

179 モニカ **(気品高く微笑みながら愛情を込めて)**

180 「私の旦那様は私にとってこの世で最も尊い。それはもう、揺るぎない事実なんだ。
181 自分を平凡に見積もって傷つけることは、旦那様でも許さないぞ♡」
182
183
184
185

186 モニカ「ふふ。さ、今日は特別なディナーを用意したんだ。最高級の食材を取りそろえ、
187 一流シェフを国から呼び寄せた。楽しい夜が私たちを待っているよ」

188
189 旦那「そんな、僕のために……」
190

191 モニカ「当然のことだ。言っただろう？ 私の最愛の旦那様なんだ。
192 この世の全てを捧げてでも足りないくらいだ。こんなこと、いくらでもしてあげるさ」
193

194 旦那に向かって気品高く、しかし愛に満ちた眼差しで
195

196 モニカ「だから、今宵は存分に甘やかさせてもらうぞ♡
197 いや、これからの人生全てを通じて、私の愛する方を幸せで包み込んであげたいんだ」
198

199 旦那「(感動して) モニカ……」
200
201

202 モニカ「さ、行こうか。今日という一日を、私たちだけの特別な時間にしよう」
203

204 モニカ(小さく呟き)

205 「ああ……。旦那様のその戸惑いのお顔、たまらないな。
206 末永くこの方を甘やかし続けられるなんて……ふふ、本当になんていう幸せだ♡」
207

208 場面変わり、自宅の寝室にて二人きりの時間。
209

210 モニカ「さて、と。旦那様、今日のディナーは満足してくれただろうか」
211

212 旦那様「も、もちろん。食べたことない料理だったけど、凄く美味しかった……！」
213

214 モニカ「それは良かった♡」
215
216

217 モニカ（艶めかしく微笑みながら）

218 「そう言えば、旦那様。寝室に入った今だからこそ言えるのだが……」

219
220 意図的にゆっくりと旦那に寄り添いながら

221
222
223 モニカ「実はな。先ほどのナンパ男たち、私の体をいやらしく求めてきたんだ♡」

224 旦那「（顔を強張らせて）え……？」

225
226 モニカ（上品に、でも色気を含んだ声。旦那の胸に指先で円を描くように）

227 「あの男たち、『刺激的な夜を』なんて言って、私の体に触れようとしてきてな♡」

228
229 旦那（明らかに動揺して）そ、それは……！」

230
231 モニカ（艶然と微笑み）

232 「ふふ♡その怒りと嫉妬に歪んだお顔、とても素敵だな」

233
234 モニカ「でも、安心して？」

235
236 モニカ「この体のすべては、永遠に旦那様だけのものだ♡」

237
238 旦那（顔を真っ赤にして）モ、モニカ……」

239
240 モニカ（優雅に立ち上がり艶やかに髪をかきあげながら、艶のある声で）

241 「あの男たちに言ってやったのさ。」

242 『この清らかな体は、永遠に旦那様お一人だけのものだ』とな♡」

243
244 モニカ（慈しむような優しい笑みを浮かべて）

245 「ふふ、旦那様♡ そんなにむくれていたら可愛い顔が台無しだ」

246
247

248 優しく旦那の頭を撫でながら
249

250 モニカ「よしよし♡ 怖い思いをさせてしまったかな？ 髪を撫でてあげよう」
251

252 指先で旦那の髪をそつとすいて
253

254 モニカ「ふふ。こうやって撫でているだけで幸せになってしまうな」
255

256 旦那「徐々に落ち着きを取り戻しながら」モニカの手、温かい……」
257

258 モニカ「分かってる。そんな顔しなくても、もつと撫でてあげるとも」
259

260 こめかみから耳まで、そつと指先で愛撫するように
261

262 モニカ「ここは好き？ それとも……こちらの方が好みかな？」
263

264 旦那「すっかりリラックスした様子で」うん。気持ちいい……」
265

266 モニカ（嬉しそうに）
267

267 「その幸せそうなお顔、たまらないな♡。ふふ。よしよし、私の大切な旦那様♡
268 こんなに素直な表情、私だけに見せてくれるのだから、私は世界一幸せなのだろうな。
269

270 旦那の勃起したオチンチンが当たる。
271

272 モニカ「おや……。ふふ♡ 旦那様、これだけでは収まらないらしい。
273

274 どうやらオチンポ様は、私のオマンコをご希望のようだ♡」
275

276 旦那「あっ！ ご、ごめ……！」
277

277 モニカ「なにも謝る必要はない。私はあなたの妻なのだから、ご奉仕は当然だ♡
278 ナンパ男に汚されそうになったこの体。旦那様のオチンポ様でどうか慰めてほしい♡」

279 旦那「も、モニカごめん！ ずっと我慢してたんだ！ 今すぐ君を無茶苦茶にしたい！」
280

281 モニカ「ふふ。来て、旦那様♡ 私をどうか旦那様の好きなようにむさぼってくれ♡」
282

283 挿入（喘ぎ開始。ここからAのトーン）

284 最終的に「C」まで上がり、上がるごとに喘ぎが強くなるイメージでお願いします。
285

286 モニカ「ん、あっ……。ふふ。あつつ♡」 ※艶めかしく「あつつ」を強調。

287 「旦那様の形が分かつちゃうな♡ もうあなた専用のオマンコになってるよ」
288

289 旦那「動いて、いい？ も、限界で……」
290

291 モニカ「良い子の旦那様。私の体を気遣ってくれたんだな。」
292

293 でも、もう我慢しなくていい。妻のこの体に、男の性をぶちまけてくれ♡」
294

295 **ピストン開始。**

296 モニカ「んっ！ あっ、んっ……。すご。中がびったり……はんっ……！

297 じ、自分で言うのもあれだが、んあっ！ ヒダヒダが旦那様のにピッタリ合ってるな♡」
298

299 旦那「うん、これ、凄い……！ 中もぐしょぐしょで……」
300

301 モニカ（やや恥ずかしがって）

302 「こ、こら。あんっ♡ ぐしょぐしょとか言わないでくれ。んんっ！

303 この音だけでも恥ずかしいのに、そんな感想を旦那様の声で言われたら、
304

305 そ、それだけで達しそうになる。あなたの声は……んっ、あ………！
306

307 わ、私にとっての絶頂道具だと理解しておいてくれ♡」
308
309

310 モニカ（急に速く突かれ、珍しく狼狽える）

311 「あつ、ダメえ♡ あつ、んあつ♡！ そ、そんなに張り切って腰を振らないでくれ♡
312 そ、そんな単純な旦那様も素敵だが、そんなに速いと楽しめな——んぐっ♡ あっ♡
313 やっ♡ つよいい……♡ これ。凄いオチンポ様の形、分かっちゃ……。んぐうう！♡」

314
315 旦那「モニカがそんなことを言うから悪いんだよ……！」
316

317 モニカ（余裕を取り戻して）

318 「旦那様、そんなに虐めないでくれ♡ 私はもう旦那様の虜だつていうのに、
319 オチンポ様でこれ以上私を惚れさせてどうする気なんだ？ んっ……♡
320 ほら、オマンコの形もヒダヒダも入り口も、旦那様にピッタリだろ？♡
321 専用のオマンコになってるんだ、だから……」

322
323 モニカ（とろける声）

324 「少し動かすだけ……で……はっ、ああああ……♡
325 ズリッて、中でズリッつていっ……た……すごい……♡ あっ、うっ、ああっ！
326 どこ擦っても……きもちい……♡」

327
328 旦那が覆いかぶさる。
329

330 モニカ「だ、旦那様？ どうした？ 距離がぐっと近くなったな。

331 これはこれで……んう♡ 気持ちいいし、綺麗な顔を間近で見れるから……
332 んふっ♡ 嬉しいけど」

333
334 旦那「甘えるようにモニカの手頬に頬ずり）モニカ。もっとなでて欲しい」
335

336 モニカ（溢れる愛情を込めて）

337 「……ああ。分かった。いっぱいいっぱい撫でてあげよう♡」

338
339 両手で頬を包み込むように
340

341 モニカ「この可愛らしいお顔も」

342

343 親指でそっと頬を撫で

344

345 モニカ「この柔らかな耳も」

346

指先で首筋を優しく撫でながら

347

348 モニカ「この敏感な首筋も」

349

350 また頭を撫でに戻って

351

352 モニカ「全て私のものだ♡」

353

354 旦那「すっかりモニカの手に溶けるように」モニカの手が一番好き」

355

356 モニカ（幸せに満ち溢れた表情で）

357

「良い子だ♡その素直な愛情、もつといっぱい恵んでくれ。」

358

……ああ。もちろん、オチンポ様でな♡ どうかこのオマンコに旦那様のお慈悲を。
濃いザーメンを注いでくれ♡」

360

361 モニカ「あっ♡ んぐう！ 一気に奥——うううう！ すごっ……♡ あうう！

362

旦那、様……！ うあ、ダメだ！ こんな気持ちいい——なんて……！♡

363

364 旦那「モニカ、好き……」

365

366 モニカ「旦那様、大好きだ……！ きす……！ キスして欲しい♡

367

私の口を犯すくらいの激しいキスを、いっぱい……！

368

んじゅる、んぐう！ んじゅる、はぶっ、んじゅ、じゅるる、んんっ！

369

じゅるる！ あっ、ん♡ んぶっ、じゅるる、んじゅ、んじゅ、んじゅるる。

370

371

372 モニカ（息切れしながら）

373 「旦那様、本当にヤバイ♡ 好きが溢れて仕方ない♡ んあっ、あっ♡
374 ホント、妻たらしというか……んじゅる、じゅ、じゅる。んあ♡ んっ。

375 そういうところ、本当に愛らしいぞ♡ んおっ、あっ、ぐうううう！ あっ！」

376

377 旦那「ごめん、もう……！」

378

379 モニカ「動き、あっ……はやつ♡ もうイキそうなんだな。

380

381 私も、もっ、ぜんぜん余裕はないんだ。つくづく相性が良いな♡ ホント嬉しい♡
382 あっぐうう！ だ、旦那様。先に謝っておく。オマンコからお潮が出そうなんだ♡
383 お漏らしてしまっても、どうか嫌いにならないでほしい……！ んっ、ふうう！」

384

385 旦那「なるもんか！ モニカが気持ちよくなってくれるなら、僕はそれで……！」

386

387 モニカ「嬉しいな♡ あっぐ！ それ、すっご……！」

388

389 あっ、ぐっ、んおっ！ あっ、いや♡ 変な声が出てしま——うんんんっ♡
390 あっ♡ ダメッ♡ ダメッ♡ そこいや！ そこばっかり！ 旦那様は意地悪だあ！
391 うあっ！ イク……！ 私、もうイツ……あああっ♡」

392

393 旦那「モニカ！ モニカ！」

394

395 モニカ「どうか遠慮なく……注いで……くれ♡ うっ、おっ、んあっ！
396 私も、限界……！ あっ、ダメ！ イクッ！ イツツク！」

397

398 モニカ（絶頂）

399

400 「んぐっあああああっ！ 出てる！ 旦那様！ 旦那様の熱いのが！ あうううん！
401 うあああっ！ イツク！ だめ、ずっとイツツツク！」

402

403 モニカ（**恥ずかしがって**）

404 「ああっ！ やだ、旦那様、見ないでえ。と、止まらないんだ。

405 おもらししてるところなんて、恥ずかしすぎる。あうう。そんなじっくり見ないでくれ

406 んっ、やつ、ぶしゅぶしゅって……んうううう♡

407 んっ、ふ。……もう。旦那様。ずっと見つめて意地悪だぞ♡」

408
409 旦那「ご、ごめん。モニカのそんな姿、初めてで……。でももっと好きになったよ」

410
411 モニカ「まあ、大好きなままならそれでいい。これでも恥じらいはあるんだ。

412 どうか覚えておいてほしい。嫌われるようなことはしたくないからね」

413
414 **汚れたオチンポを見て。**

415
416 モニカ「オチンポ様がべっとり汚れてしまったな。ふふ、お口で綺麗にさせてもらうよ」

417
418 モニカ「よしよし。私の愛しい旦那様。オチンポ様にも礼を払わねばな。

419 ずっとずっと、こうして可愛がってさしあげよう♡ んっ……」

420
421 **お掃除フェラ**

422
423 モニカ「んぐっ。じゅる、じゅるる、んじゅ。んあ……れろれろれろれろ。

424 んじゅる、はぶ。んじゅるる。はは。すつつつご……。大きい♡ じゅる、じゅるる
425 れろれろ、れるるるる。じゅるう。れろろろろ」

426
427 旦那「モニカ、それ、すご……」

428
429 モニカ（**フェラしながらセリフ**）

430 「ああ……私の口でとろけるそのお顔。たまらないな♡
431 旦那様の全てが愛おしくていつまでも見ていたくなる♡」

432
433

434 モニカ「じゅるる、じゅる、れろろ、じゅるる、じゅぶ、んっ……。

435 では、旦那様の大切なザーメン。残さずに飲ませて頂くよ♡」

436

437 モニカ（飲む）

438 「ぐくっ、ぐくっ。んふうう……。ぐくっ、ぐくっ、じゅる、ぐくっ、ぐくっ」

439

440 モニカ「ふう。……んふふ。美味しい、とは到底言えない味だが、

441 旦那様のものだと考えると無性に欲しくなるよ」

442

443 旦那「気持ち良かったよ、モニカ」

444

445 モニカ「満足してもらったようで良かった。最後のデイナーがお粗末では、
446 すべてが台無しだったからな。王女として、それはプライドが許さなかった」

447

448 旦那「うん、ありがとう」

449

450 モニカ「……ふふ、礼には及ばないよ。今日は私の胸の中で眠るといい。

451 旦那様が寝入るまで私がつきつきりでお世話をして、快眠をもたらしてみせよう。

452 ……ふふ。愛しの旦那様。明日もまた良き日になるように」

453

454